

今日のシライ中

白井の愉快的仲間たち

Vol.24

コスモス

以前、「今日の白井中」で紹介されていた、「キバナコスモス」。秋ですねえ、「コスモス」の美しい季節となりました。今日は、よく目にする花、「コスモス」についての話です。「コスモス」は、一見、か細く、か弱い姿をしています。台風などの大風にもめったなことでは倒れない、芯の強い植物です。それはそうですよ、何しろ台風の多い、「秋」に咲くのですから。一々台風で倒れていたのでは、生き延びられません。では、なぜ倒れないのでしょうか？それは、あの「葉」の形のおかげです。「コスモス」の葉は、細かく裂けて、スカスカな感じですね。そうです。あのスカスカの間を風が通り抜けるので、「コスモス」本体は倒れずにすむのです。また、あの細かい葉のおかげで、水分があまり蒸発しないという利点もあります。（この葉の特性は、「コスモス」の原産地がメキシコの標高の高い場所、つまり、「強風が吹き・乾燥している」土地だからだそうです。）

さて、今でこそ「秋桜」と書いて、「コスモス」と読ませるのは、定着した感がありますが、読み方を定着させてしまった？シンガーソングライター、ご存じですか？ヒントは・・・3年生の道徳の教科書に載っている「風に立つライオン」のあの人です！（3年生！もちろんわかりましたね？）答えは、「さだ まさし」さんです。さださんが、提供した楽曲が大ヒットし、このルビが定着しました。

また、「コスモス」からは離れますが、「秋」といえば、「秋の七草」、言えますか？・・・「はぎ・ききょう・くず・ふじばかま・おみなえし・おばな・なでしこ 秋の七草」です。

（どんな花だろう？興味のある人は、調べてみてね。）その中の「はぎ 萩」。偶然見た番組で、その不思議が取り上げられていました。皆さん、「萩」が、「木」だって知っていましたか？私は、あのつる性の植物は、てっきり「草」だと思っていました。でも、その茎が太くなると、確かに「木」のように、たたけば、「カンカン」と音がします。これだけでもびっくりなのに、なんと、「萩」は、今も進化中で、「木」の性質から「草」の性質に移行している途中だということです。今現在は、双方の性質、それぞれの「萩」が存在しています。進化の過程を目の当たり（何て読むかな？…答えは「まのあたり」です。意味は…想像してから調べてみてね！）に見ることができるなんて、なんとすごいことでしょう！ただ、番組の中で、「萩」が自生できる「草原」「野原」が、どんどん減ってきており、年々見かけなくなっている、ともありました。どうでしょう？この白井中の周辺なら、自生する「萩」を見つけることができるかもしれません。よかったら、探してみてくださいね。



キバナコスモス



図書室のコスモス